

# 新月館主人



今は昔  
あるところにひなびた  
漁村があった

人里から遠く離れた僻地に  
あるというのに集落には人の出入りが  
絶えず、名産品があるわけでもないが  
不思議と賑わっていたという



そしてさらに村はずれの一軒家に  
ひっそりと隠れたように暮らす  
親子の姿があった

一人息子のマサルは  
幼き頃より胸の病を  
患っており



長く床に臥せっている  
のであった





あら、起きていていいの？

それが今日は随分と  
具合がいいんだ

久しぶりに遠くへ  
散歩に行こうかな

そう  
少しならいいけど  
無理をしてはだめよ

うん、わかってる



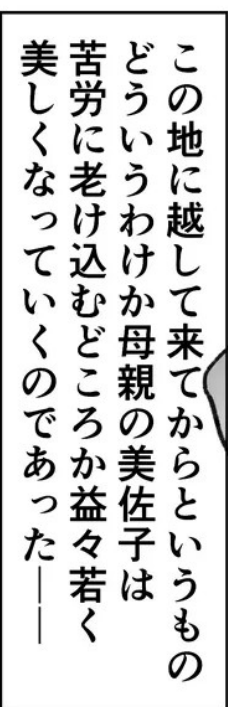
じゃあお母さん行って来るから  
あとお願いね

さっさとさっしやー!



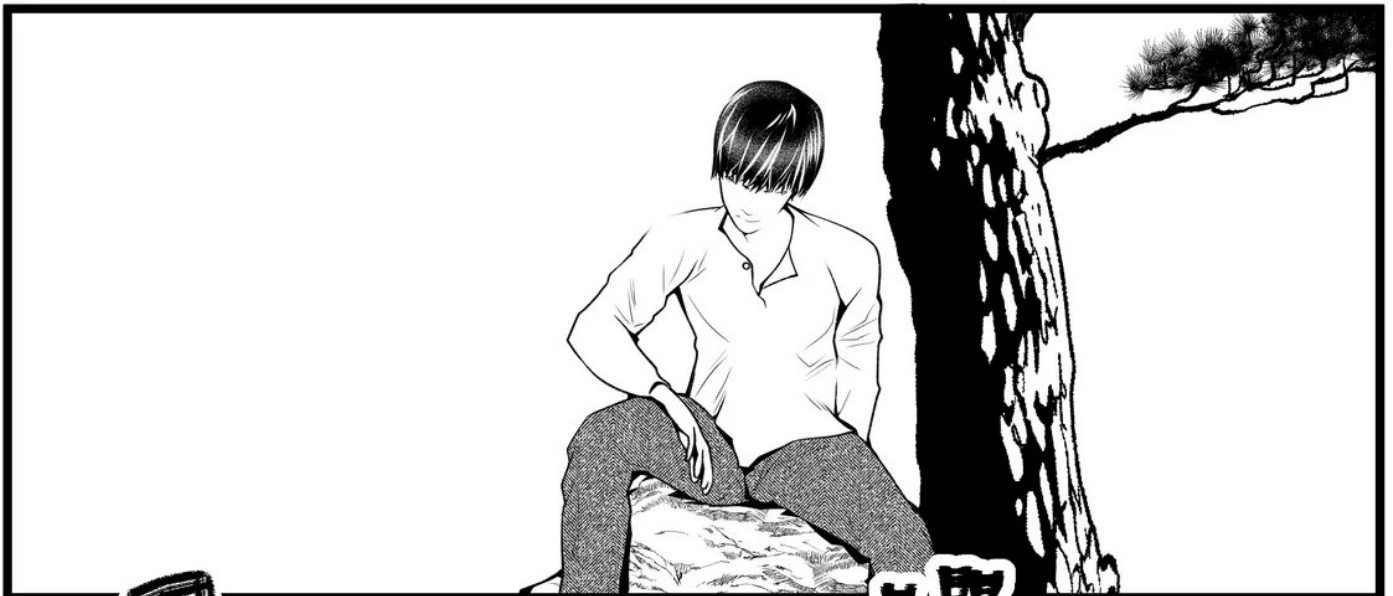
彼女は生活のために  
毎日働きに出ていた

こうした日々が続く  
もう5年目の夏になる



この地に越して来てからというもの  
どういうわけか母親の美佐子は  
苦勞に老け込むどころか益々若く  
美しくなっていくのであった——

母一人子一人の苦勞など  
どこにでもあるような話だが  
一つだけ奇妙なことがあった





こんなところに来るのは誰だろうと  
恐る恐る物陰から様子を伺ってみれば  
その正体は

際どいいでたちをした  
妙齡の女性と



仮面をかぶった  
奇妙な少年であった



女は大きく胸元の空いた煽情的な服を着ており  
その色気はここまで漂ってくるほどで

無意識にマサルの下腹部は  
熱を帯びた



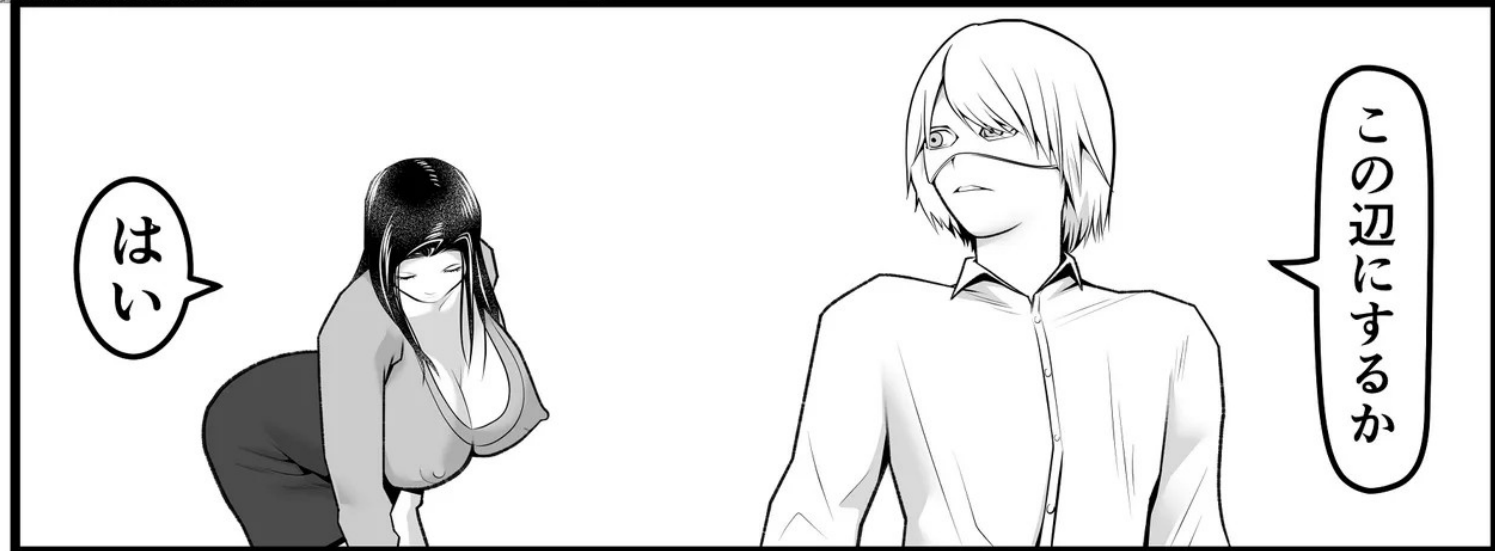
これはいつたい  
どうしたことなのか

マサルは衝撃のあまり  
ひどい眩暈を覚えた



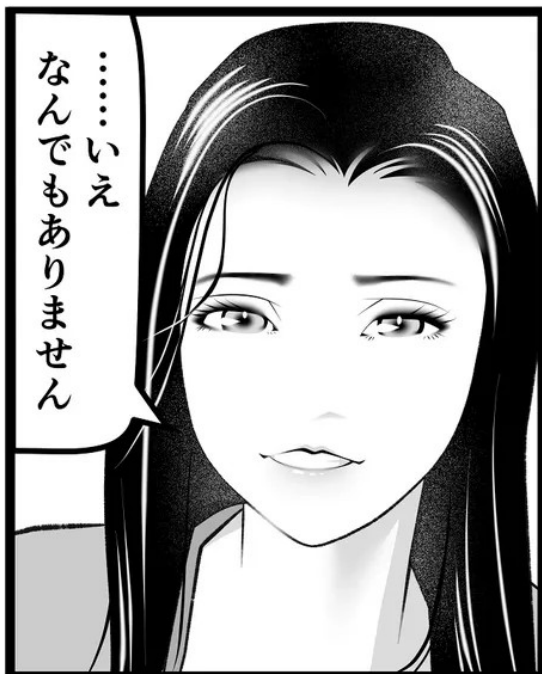
しかしよくよく注意深く  
その顔を覗いてみれば

なんとその痴女は  
自らの母ではないか

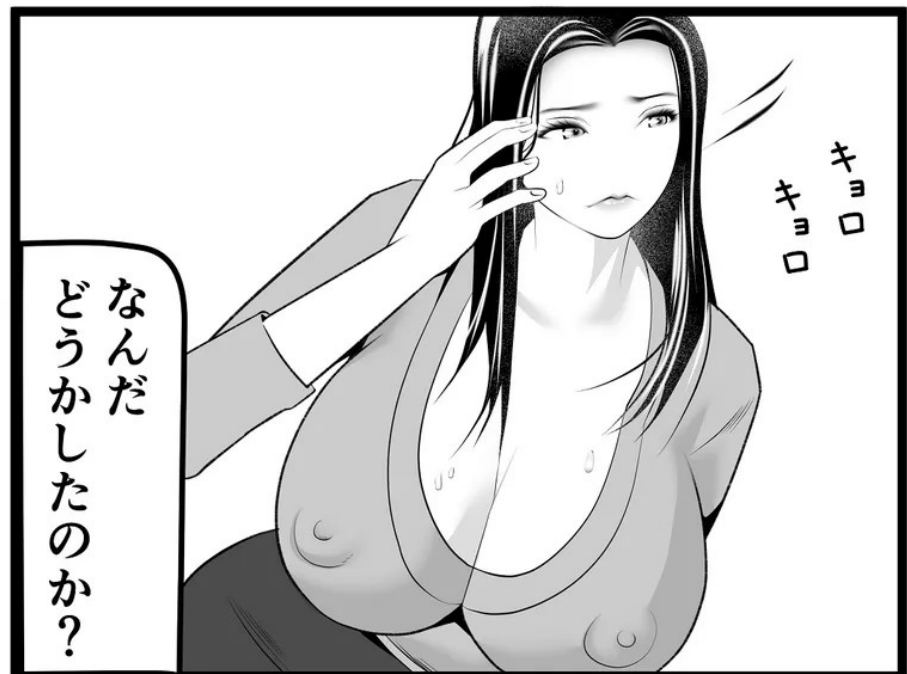


この辺にするか

はい

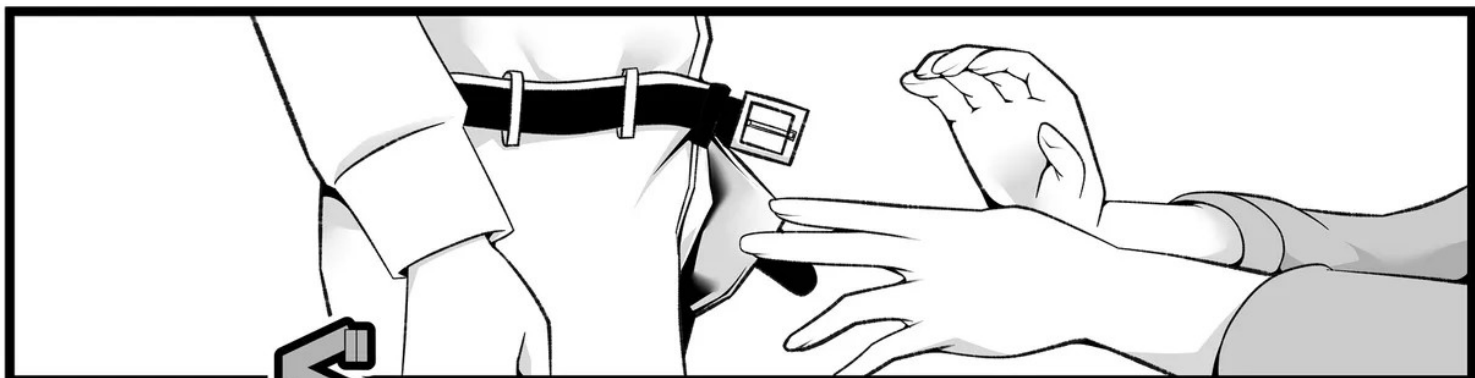
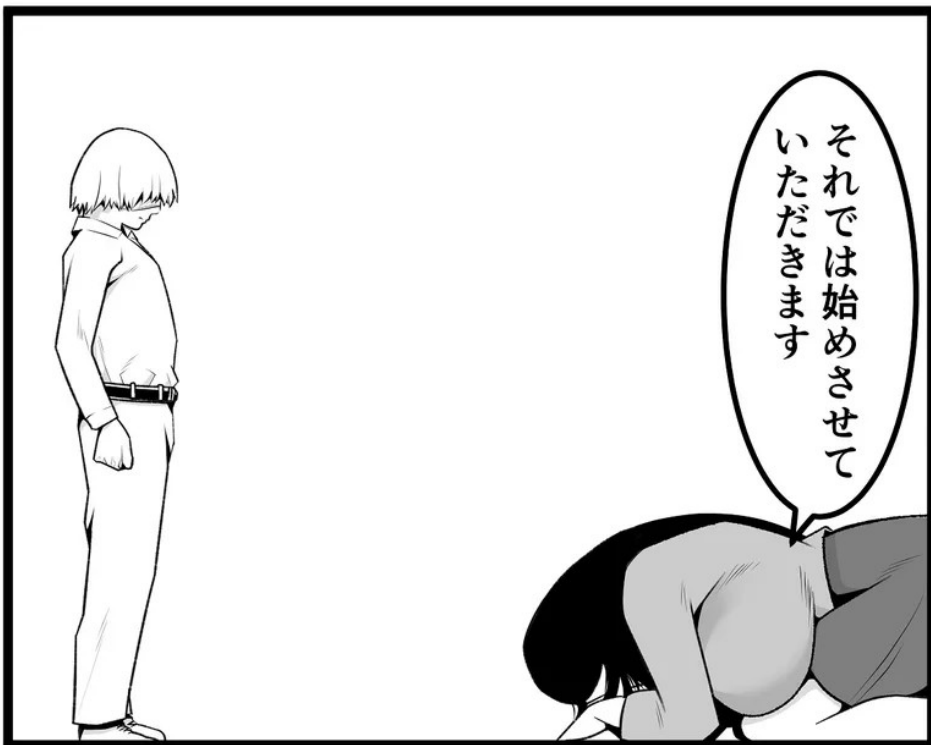


……いえ  
なんでもありません



キョロ  
キョロ

なんだ  
どうかしたのか?



か、母さん、そんな所で  
なにやっつてるんだよ!

ママ♡

アロオ

なんで母さんが  
あんなふしだらなことを

ぐっ!

マサルは  
母がお屋敷と呼ばれる所に  
奉公に行っているのは  
知っていたが  
そこで何をしているかまでは  
聞かされていなかった

しかし今  
目の前で  
繰り広げられて  
いるのは

ママ♡

自分の息子よりも幼く見える  
少年のイチモツを啜え  
音を立てて卑猥な奉仕をしている  
母の痴態だったのだ

どこで覚えたのか  
多彩な性技を駆使して  
美佐子は少年を絶頂へと誘う

しかし  
そんな彼女の努力とは裏腹に  
少年のペニス  
なかなか射精へと至らなかった



ふむ、そろそろ  
中にでも入れてみるか



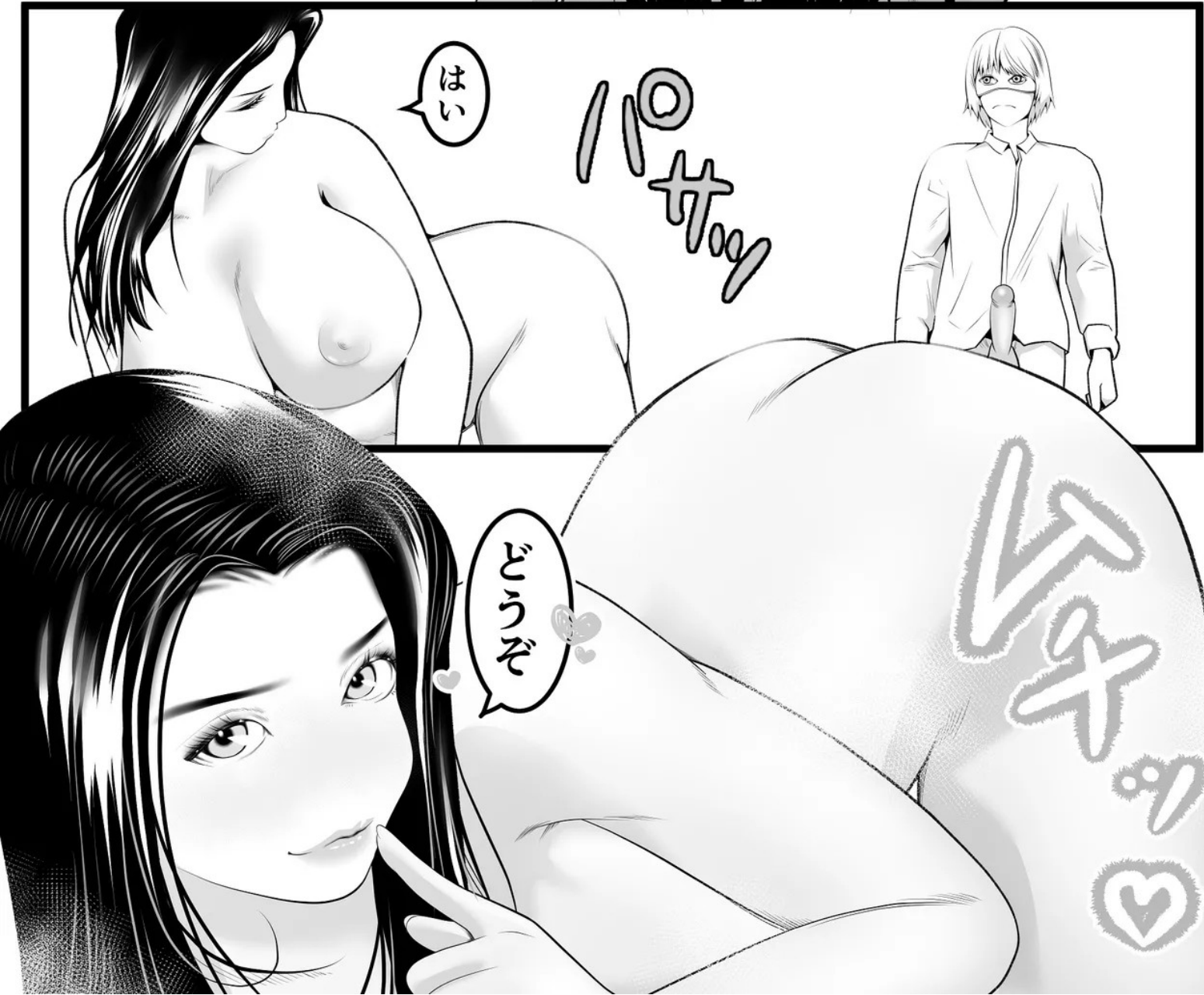
はい

ハッ



どうぞ

ぐっ



美佐子は四つん這いになり  
自ら天高く巨尻を突き上げた

お尻

恥じらう様子などなくフリフリと  
尻を振って誘うとゆっくりと  
少年のものには  
似つかわしくないペニス  
が瑞々しい肉壺へと収まっていく



家では聞いたことのない  
嬌声を上げる母

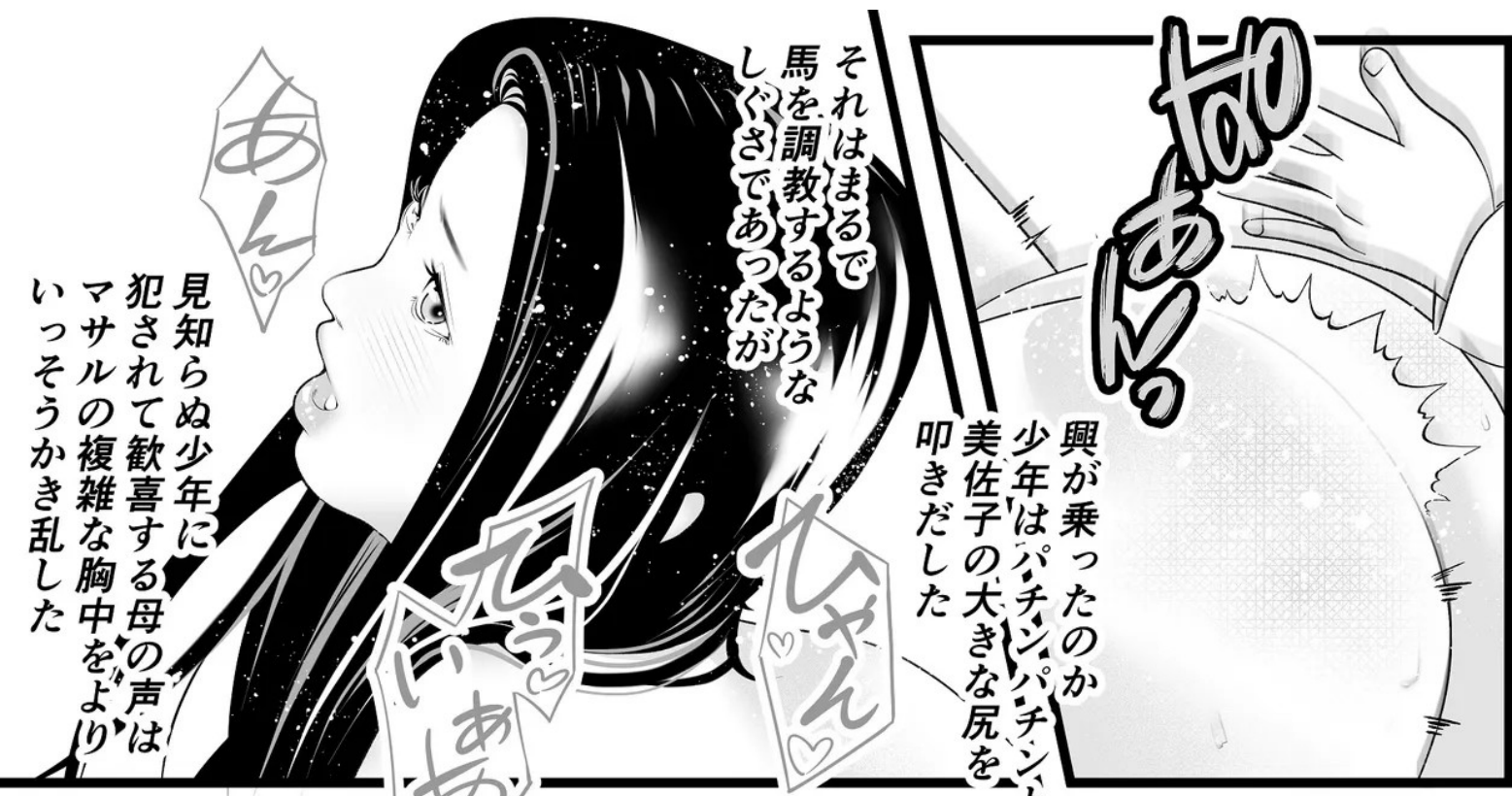
女手一つで育ててくれた母  
病の床にあっても  
励まし慈しんでくれた母が今

こちらまで  
ぬぷりぬぷりと聞こえて  
きそうな濡れ場に  
マサルの目は  
釘付けとなった



目の前で  
なまめかしくも  
体をくねらせ  
喘いでいるのだ





それはまるで馬を調教するようなしぐさであったが

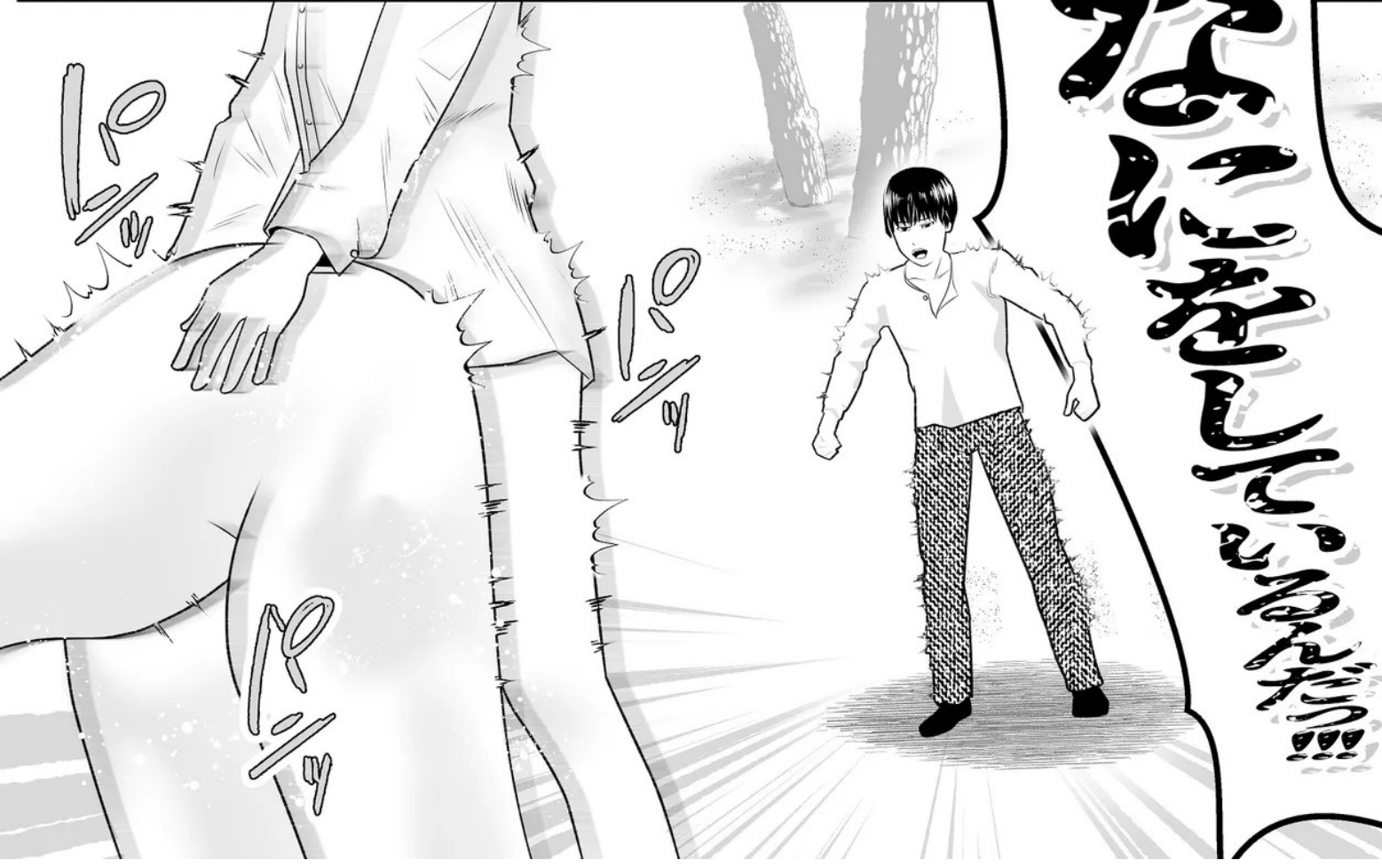
興が乗ったのか少年はパチン、パチンと美佐子の大きな尻を叩きだした

見知らぬ少年に犯されて歓喜する母の声はマサルの複雑な胸中をよりいっそうかき乱した

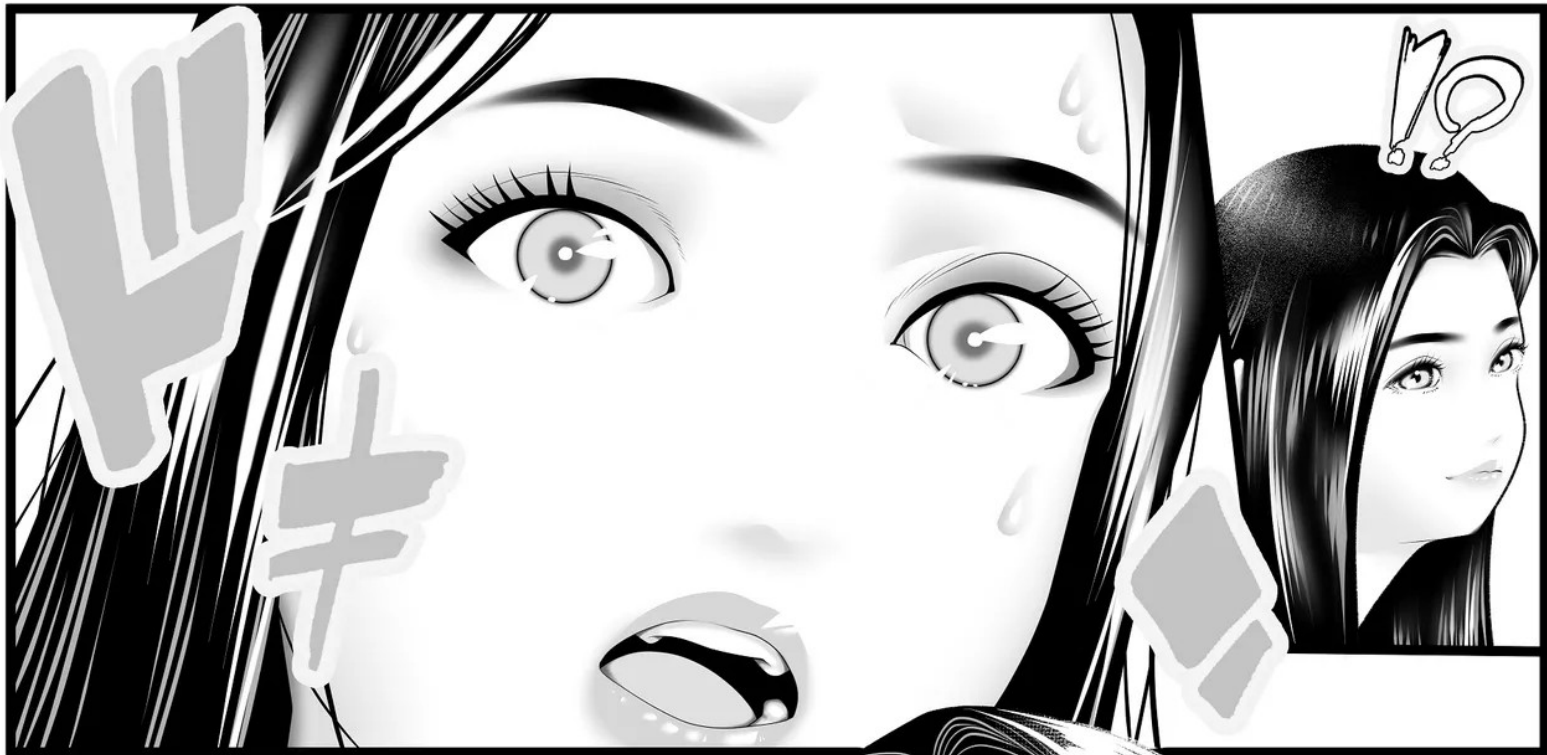


いよいよこのままでは精神が堪え切れぬとなった時

自然とマサルの足は飛び出していた

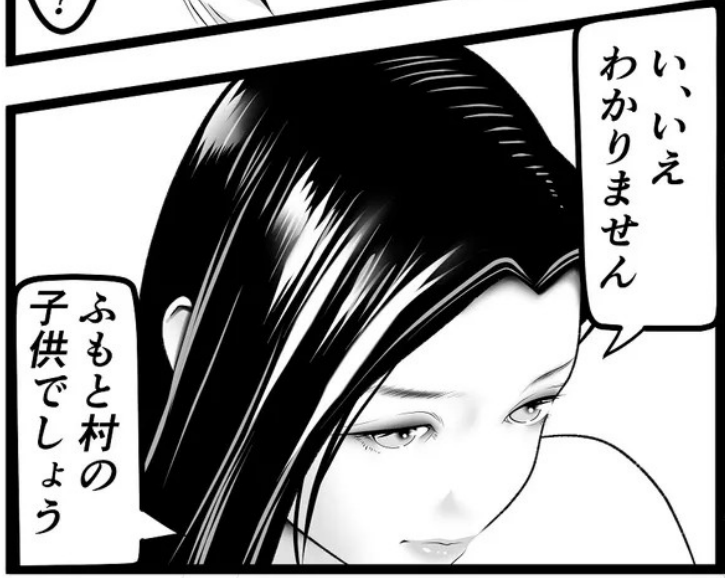


おはーん



おいあれは誰だ

知り合いか？

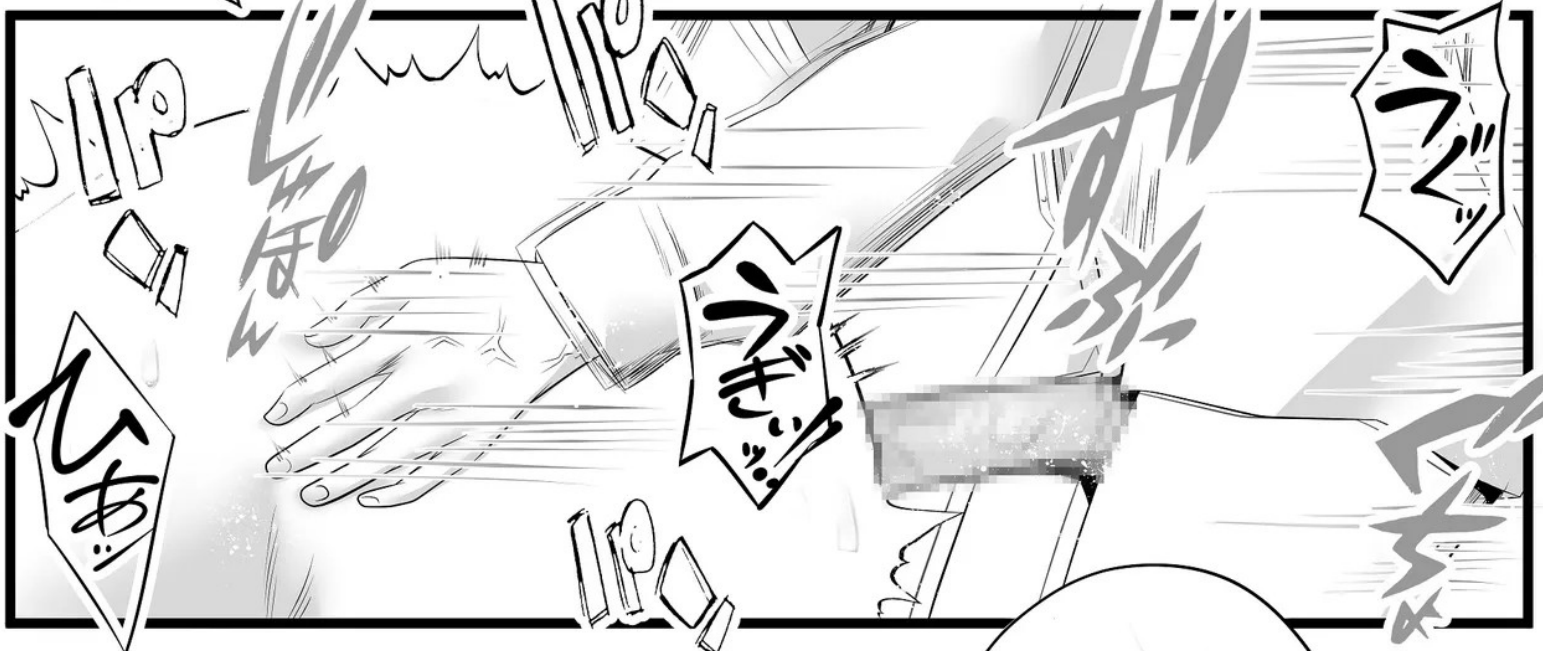
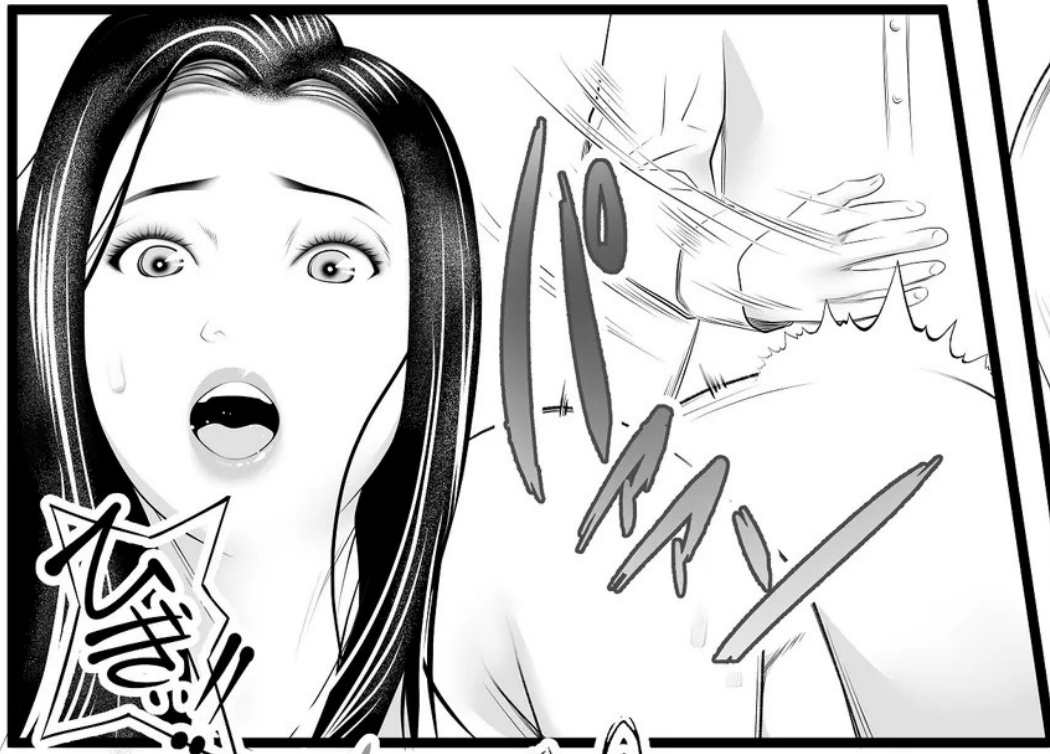


いいえ  
わかりません

ふもと村の  
子供でしょう



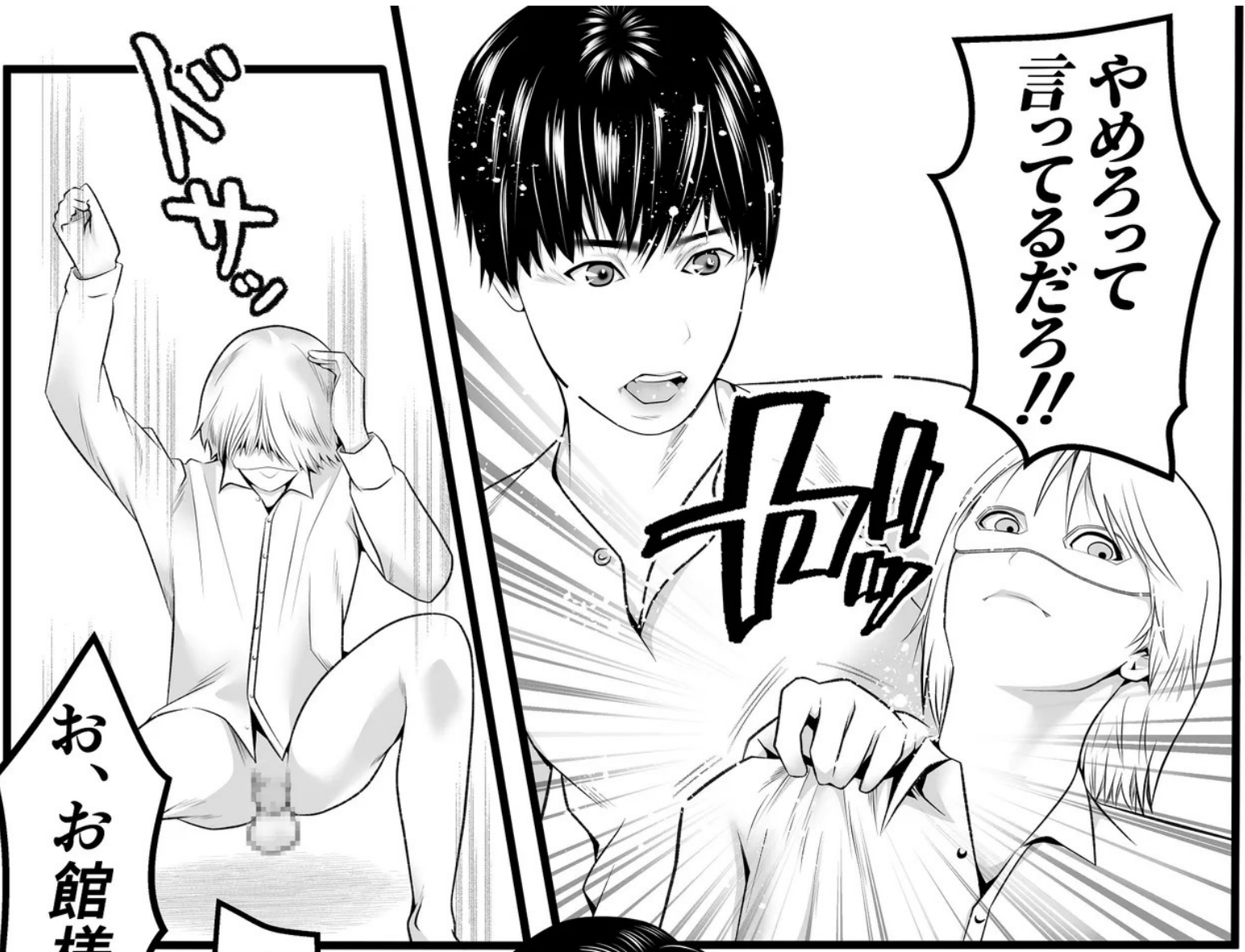
そんなふうしてここに



容赦なく出し入れされる  
肉棒の圧力に耐えながら



そう言う興味を失ったのか  
再び謎の少年はピストン運動を  
繰り返した



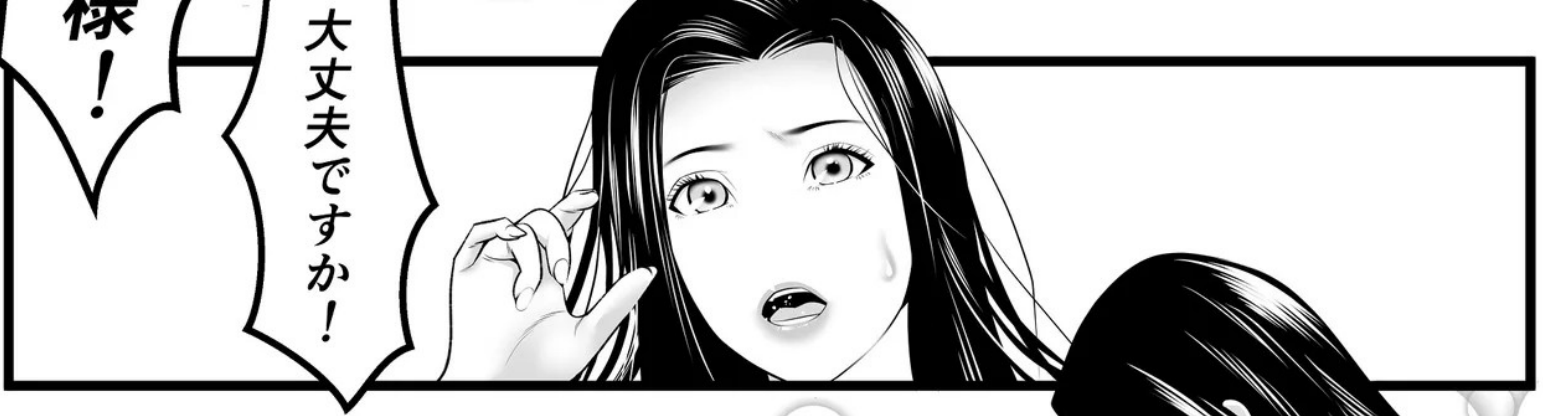
やめろって  
言ってるだろ!!

カッ

ガッ

お、お館様!

大丈夫ですか!

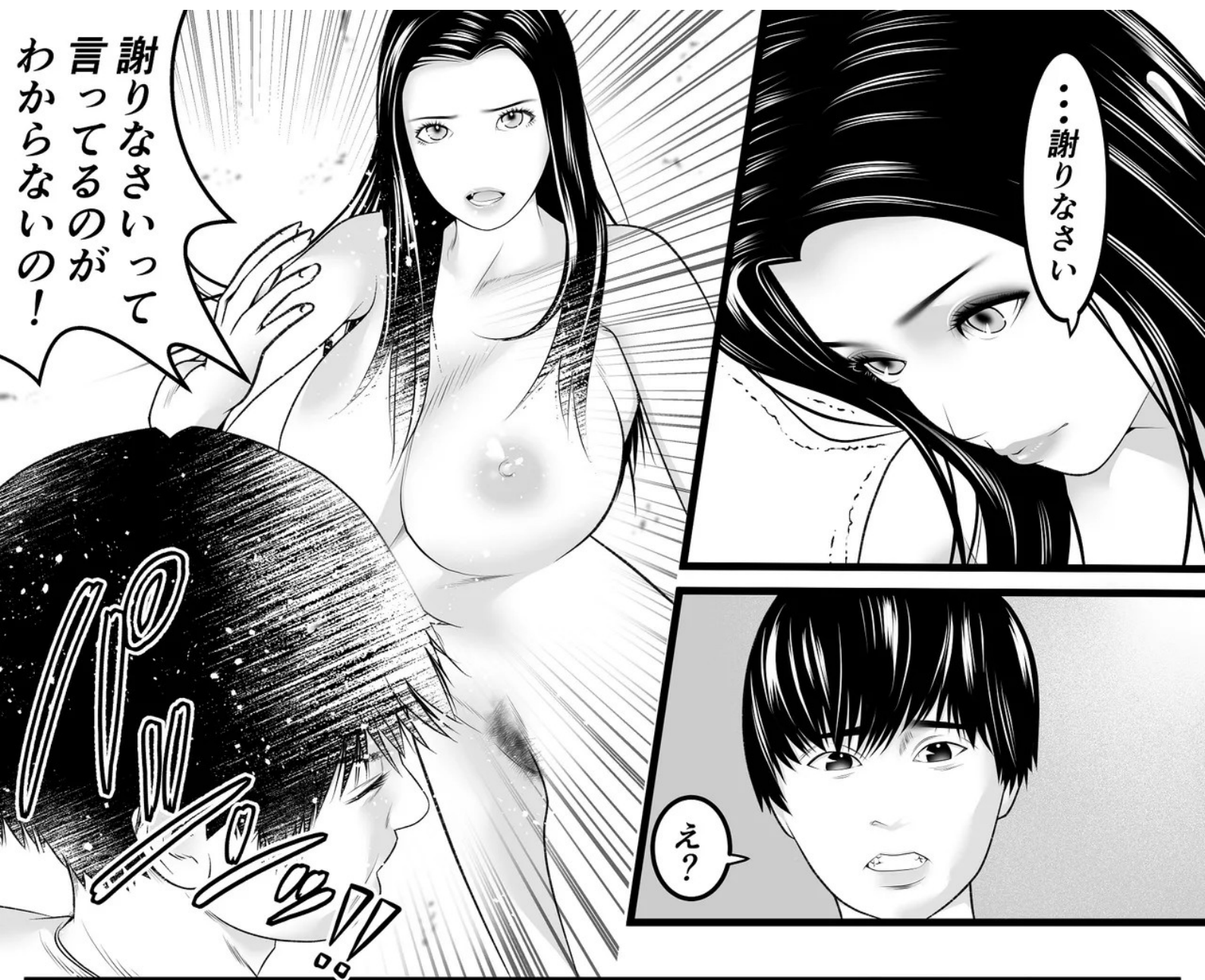


おかしいだろ!

母さん……  
なんでそいつを  
かばうんだ!

ああ  
大事な





…謝りなさい

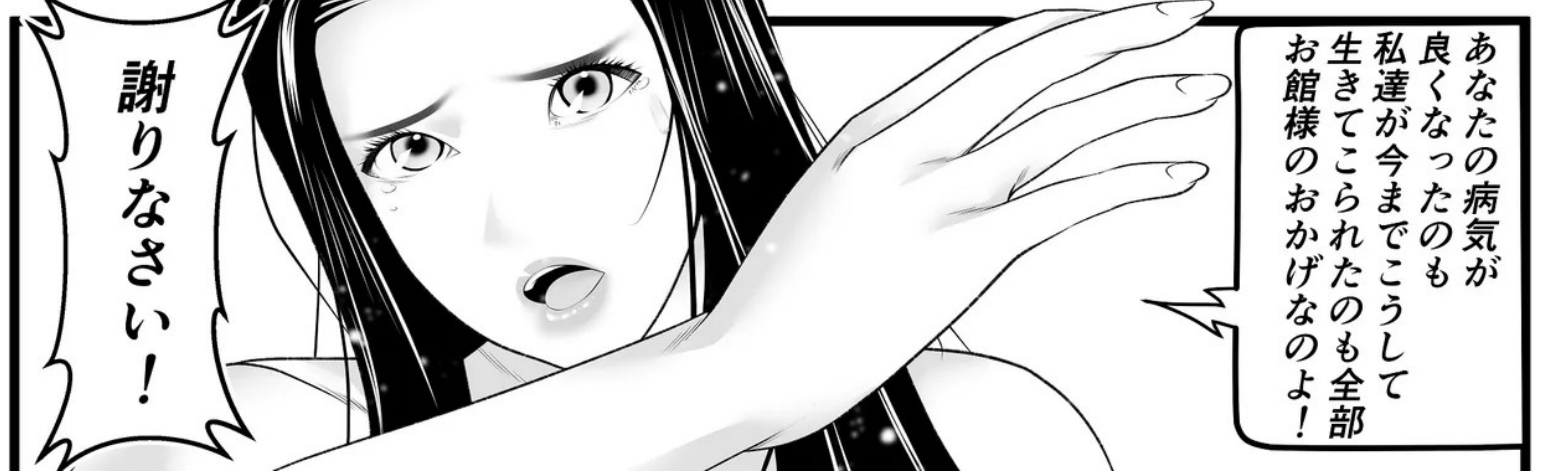
謝りなさいって  
言ってるのが  
わからないの！

え？



突然の平手打ちに  
マサルは動揺した

母にぶたれるのは  
これが初めての  
経験であった



あなたの病気が  
良くなったのも  
私達が今までこうして  
生きてこられたのも全部  
お館様のおかげなのよ！

謝りなさい！

母の権幕に驚いたマサルは  
釈然としないまま謝罪を口にした

すみま……せん

申し訳ありませんお館様！

どうかこの子の罪をお許しください！  
なにもわかってない子供なんです！

私なんでもいたしますので  
この子だけはお見逃し下さい！  
お願いします！ お願いします！

お前嘘を  
ついたな？

わかった  
だが美佐子よ

知らぬも何も  
お前の大事な一人息子  
ではないか

謝らんでいい  
少し黙っている

…は、はい  
申し訳

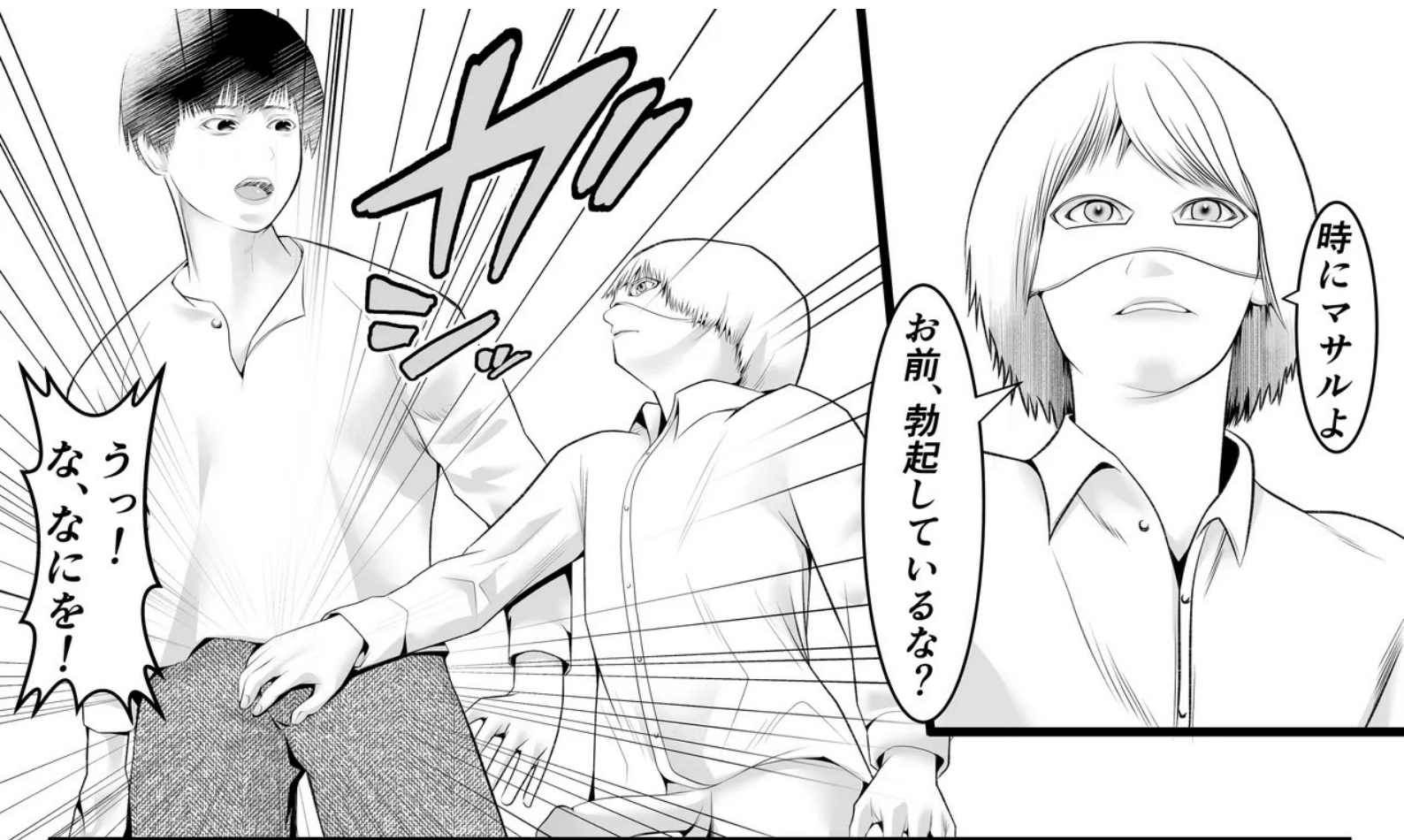
時が経つのは早いな  
前に見た時はまだ  
小僧だと思っただが

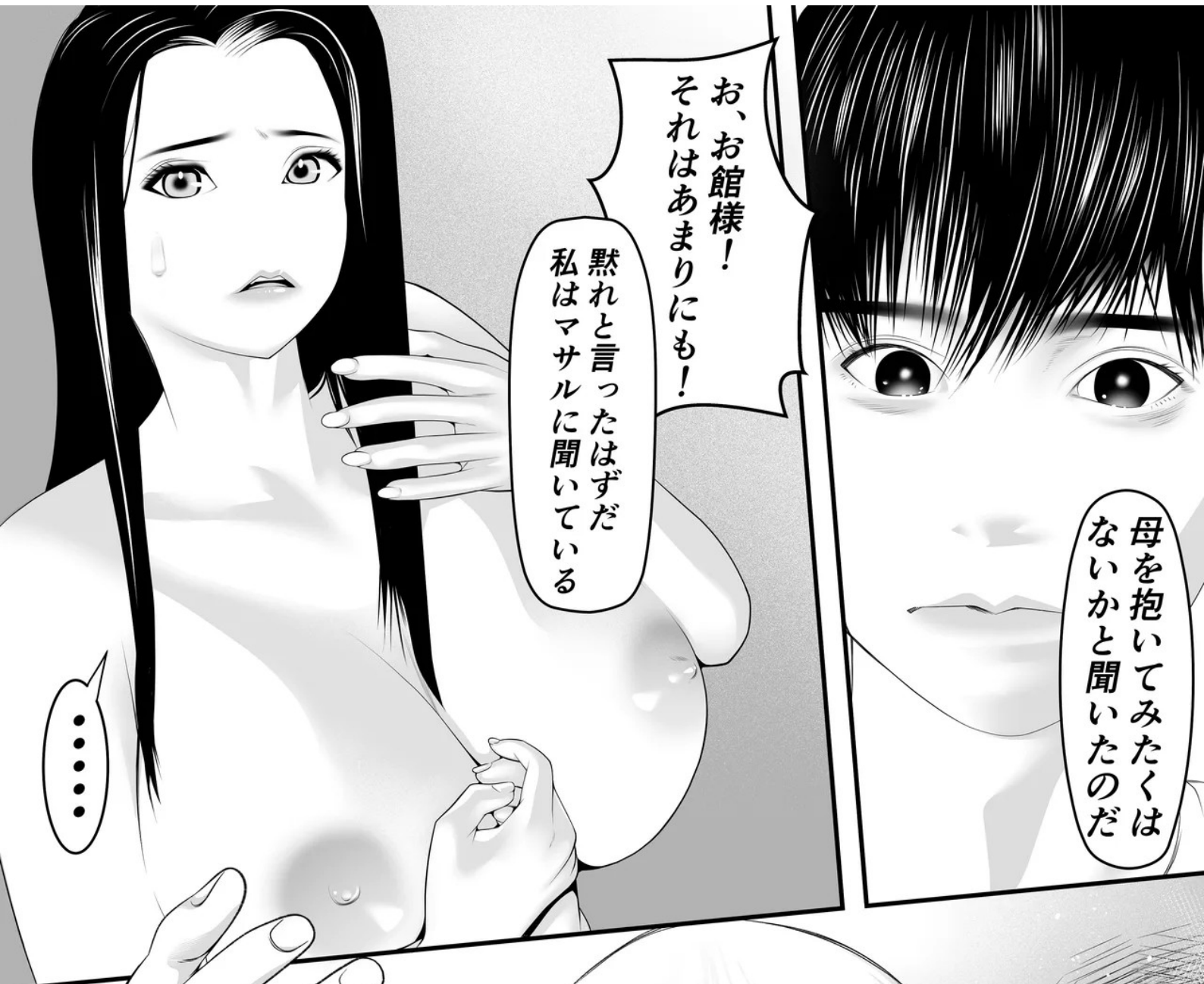
胸を病んで  
余命いくばくもない  
命であったが  
出歩けるくらいには  
良くなったのだな

お、お館様のお情けで  
今日まで無事  
生きながらえております

ふむ  
名前はマサルだったか

はい  
そうでございます





お、お館様！  
それはあまりにも！

黙れと言ったはずだ  
私はマサルに聞いている

母を抱いてみたくな  
いかと聞いたのだ



どうだ  
本心を言ってみろ

ここでのことは  
全て私のせいに  
すればいい

さあ言え  
言うのだ！！



ぼ、僕は……



たい……です

どうした  
もっとはっきり言え



では私が  
お前の望みを  
叶えてやろう

おお  
よくぞ言った!



母さんと  
したい……です

マサル!!



なんだどうした  
まさか嫌とは言うまいな

何でもすると  
言ったのは  
お前だろう？



…はい



キキキ  
キキキ

さあ美佐子よ  
まずは息子のものを  
その手で染にしてやるのだ



お館様…



いかんぞ美佐子  
男にとっても初体験は  
大切なものなのだ

私にするように  
してやれ、優しくな



か、母さん  
ちよつと痛いよ

これくらい  
我慢しなさい



.....  
わかりました



おまほ♡

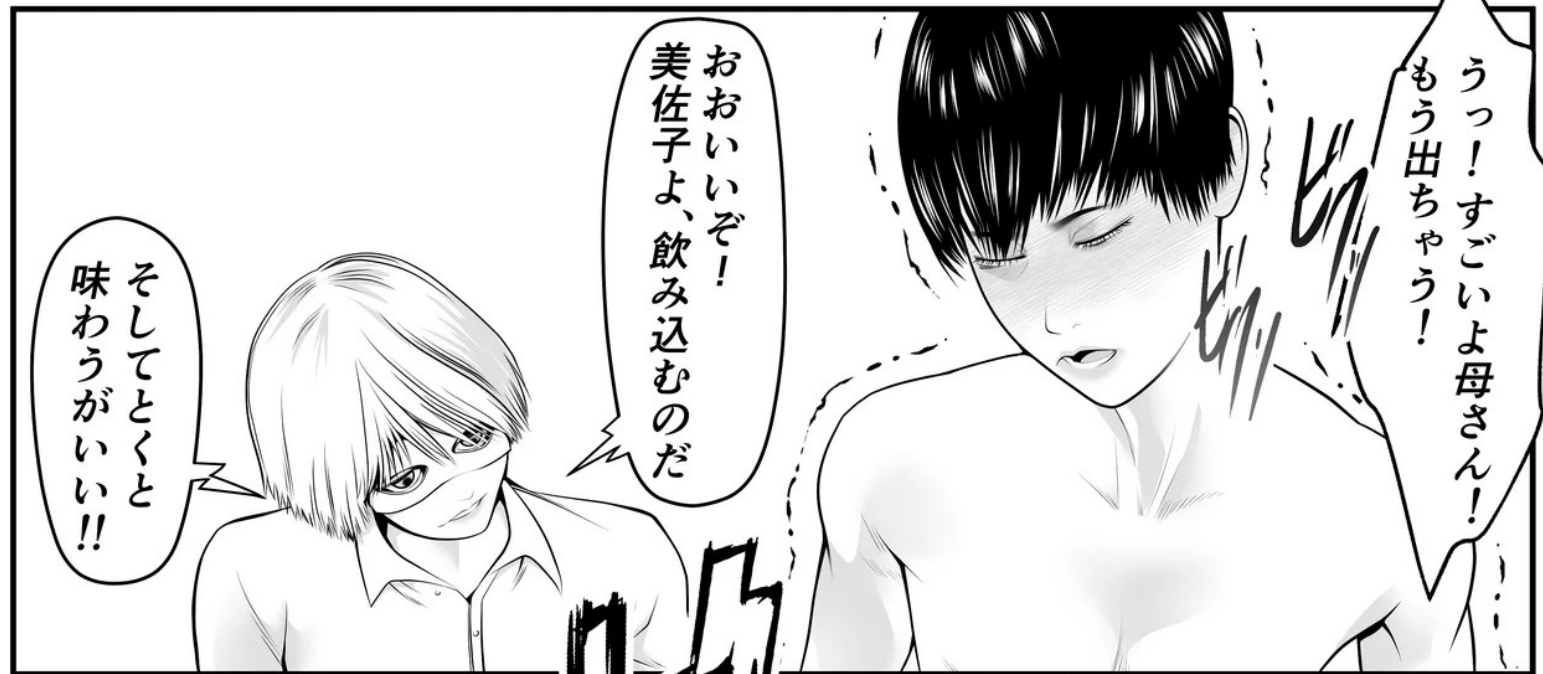
あゝ...

知知知知

おまほ♡

おまほ♡

あゝ...



うっ！すごいよ母さん！  
もう出ちゃうー！

おおいいぞ！  
美佐子よ、飲み込むのだ

そしてとくと  
味わうがいい！！



……  
かしこまりました

うわあああああああ!!!

美佐子は戸惑いながらも  
息子の青臭い精子を飲み下した

むせかえるような若い性欲に痺れつつ  
ゆつくりと残り全てを舐めとる

はむ



……生臭くて苦いです



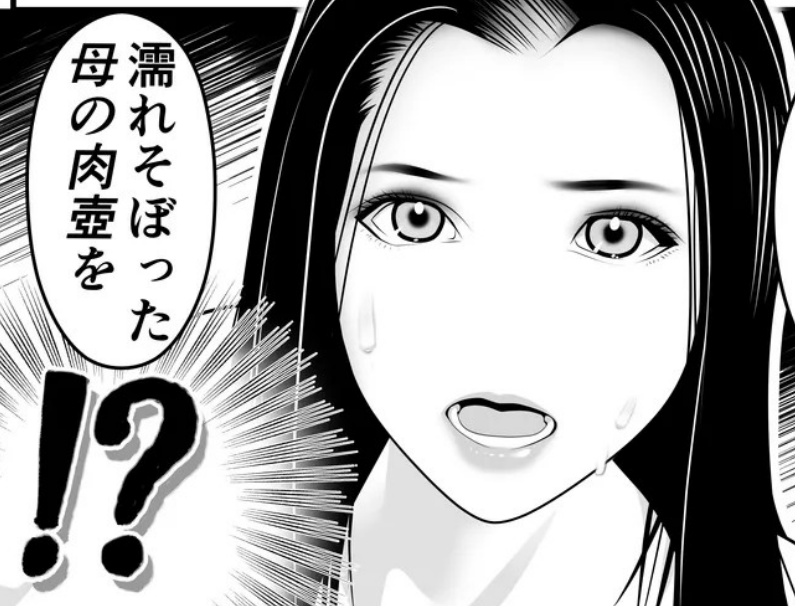
はあ、はあ

よしよしひとまず落ち着いたな  
息子のザーメンの味はどうだ？



こらこらつれないことを言うでない  
この時分の年頃は些細なことで  
傷つき悩むのだからな  
何事も女神のような広い心で  
受け止めんといかんぞ

さあ次はマサル、お前の番だ  
日頃世話になってる恩を  
返す時がやってきたぞ



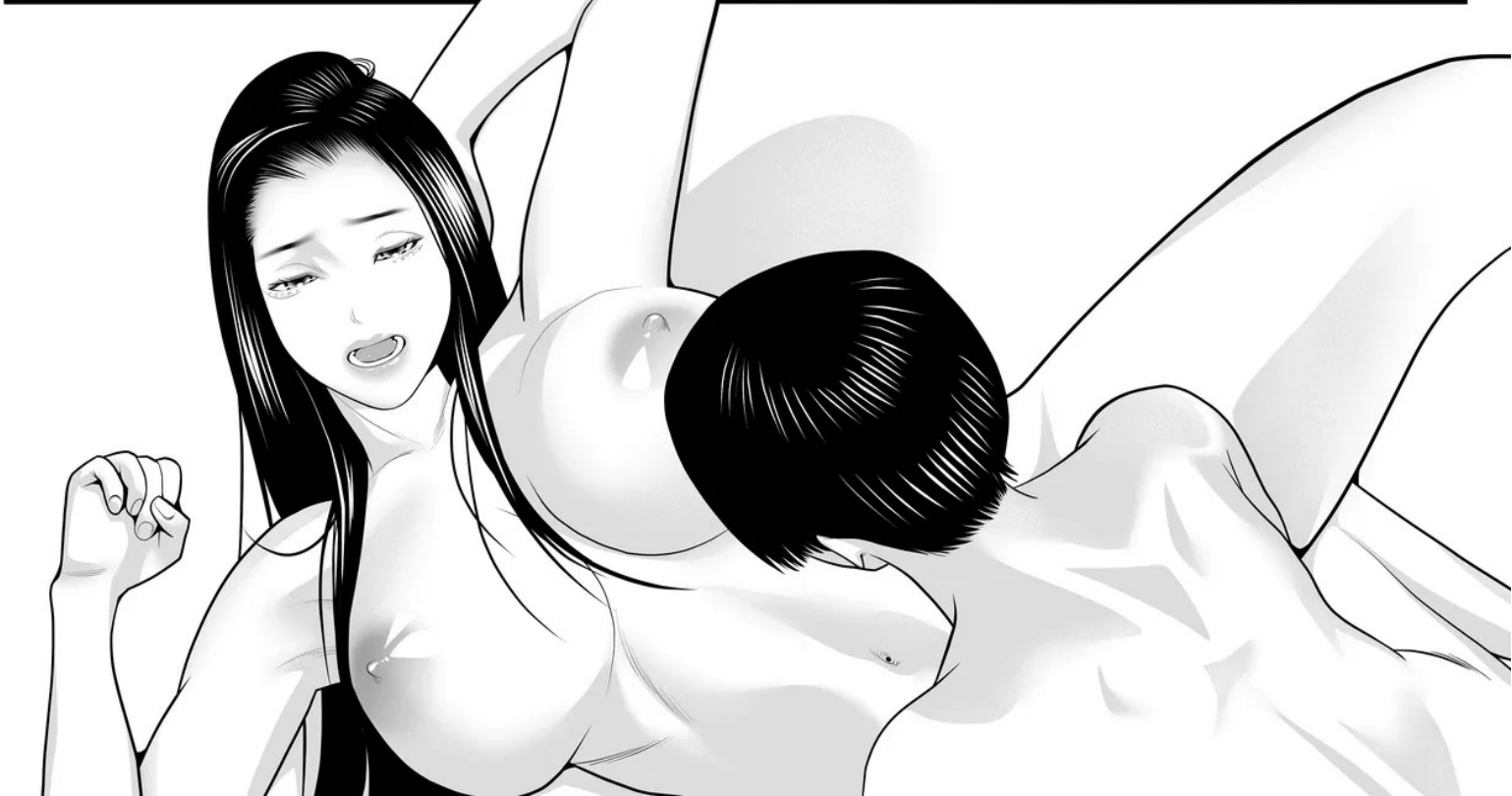
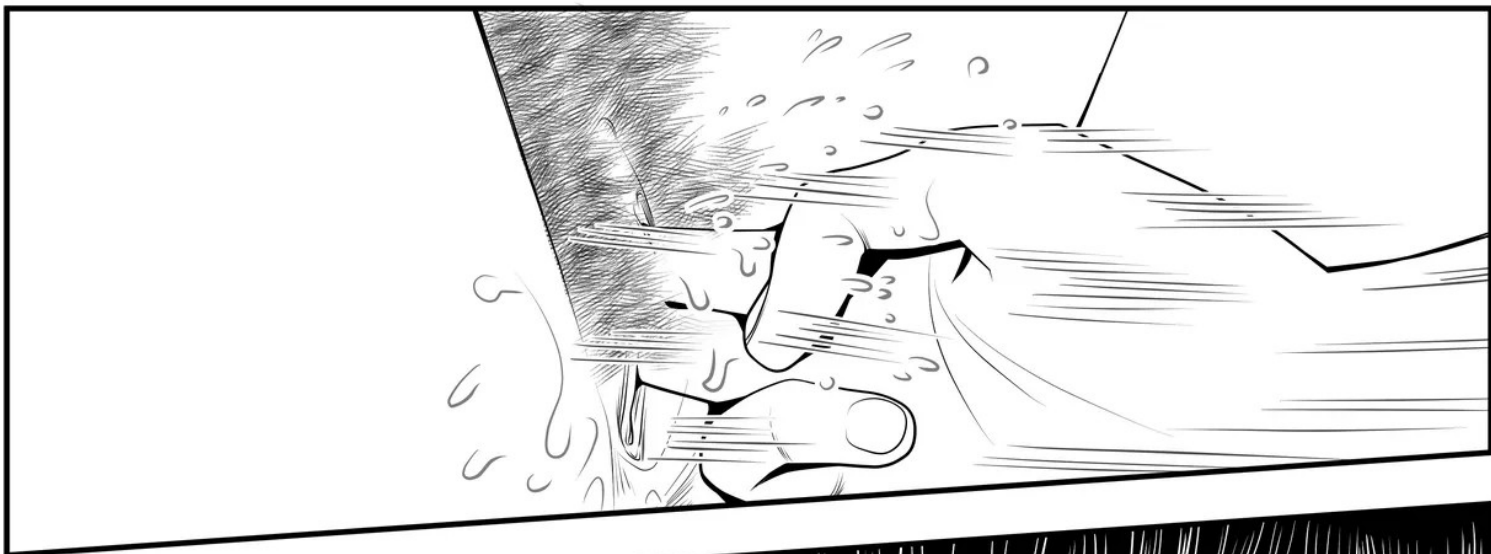
濡れそぼった  
母の肉壺を

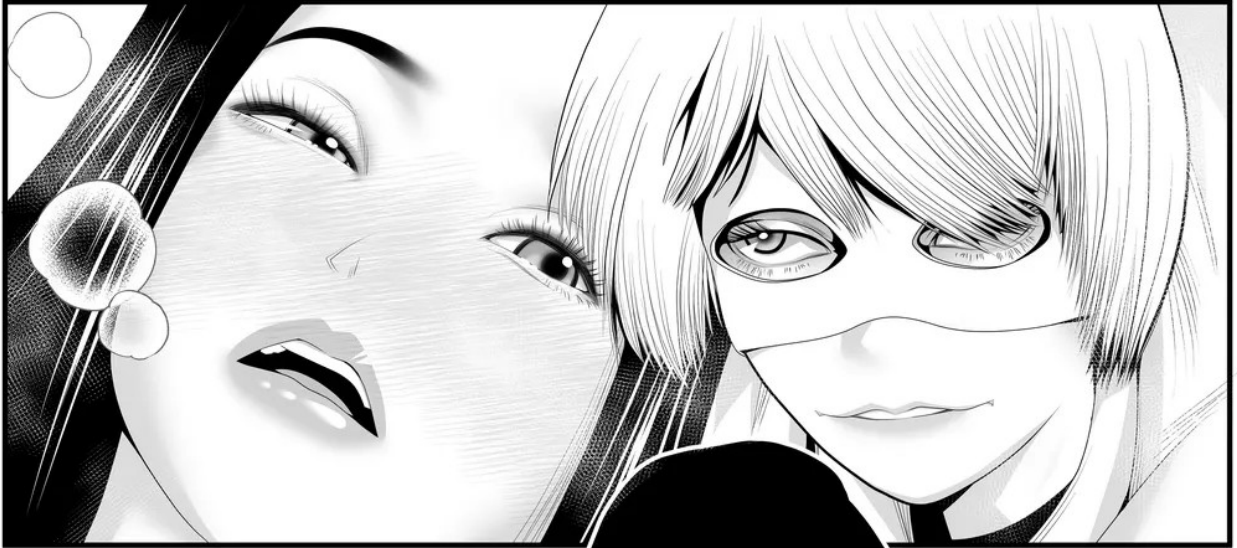
!?

そうだと  
舐めてみたくな  
ないか？

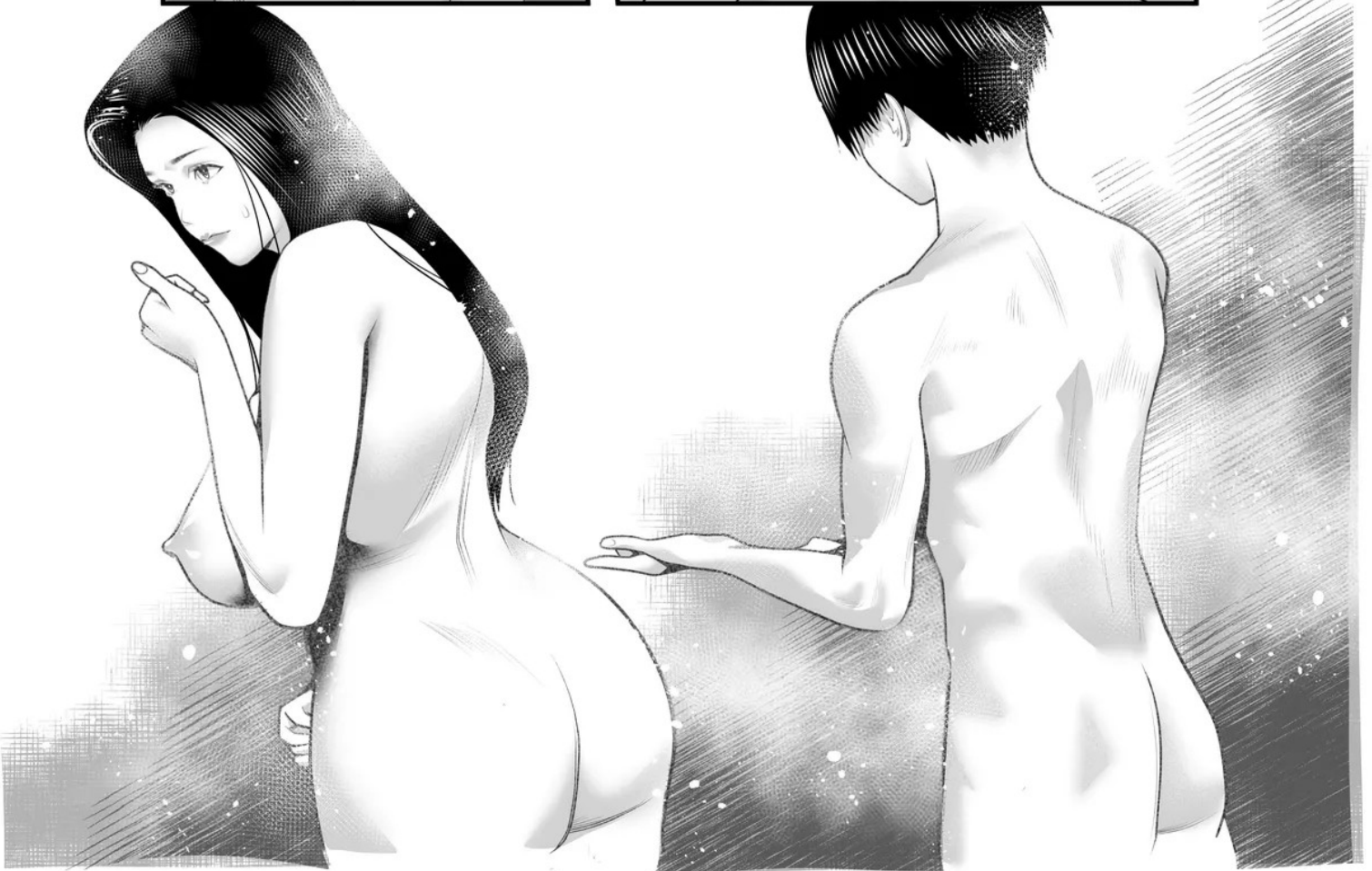
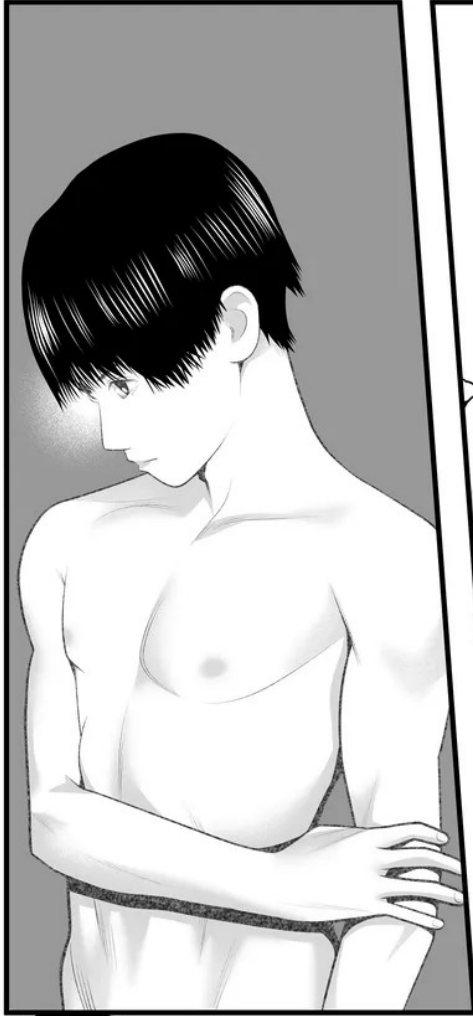


恩返し……  
ですか？











あらあら、もう  
しょうがない子ね

うん……  
母さんじゃないと  
いやだ



いいわ

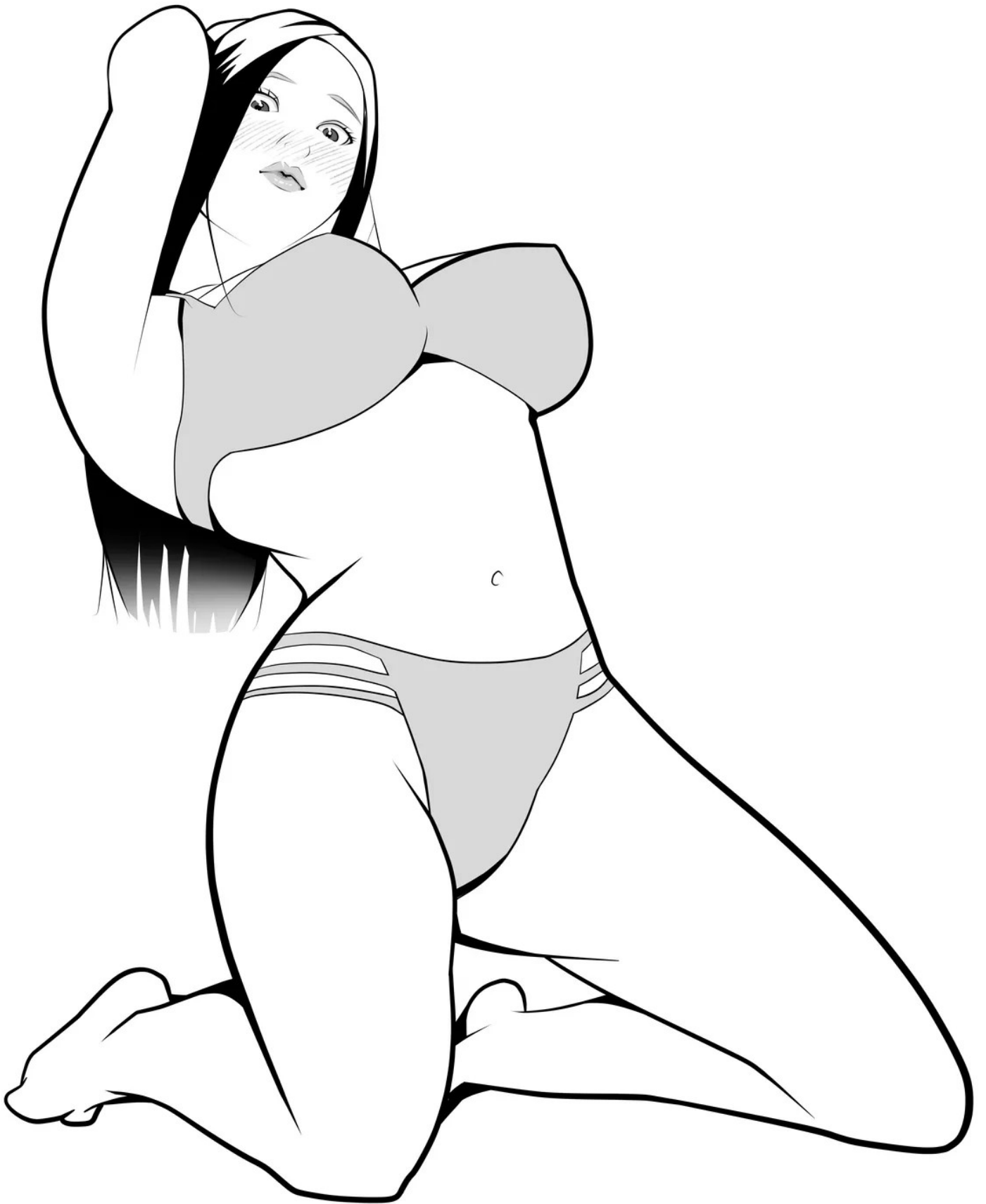
♡♡♡♡♡

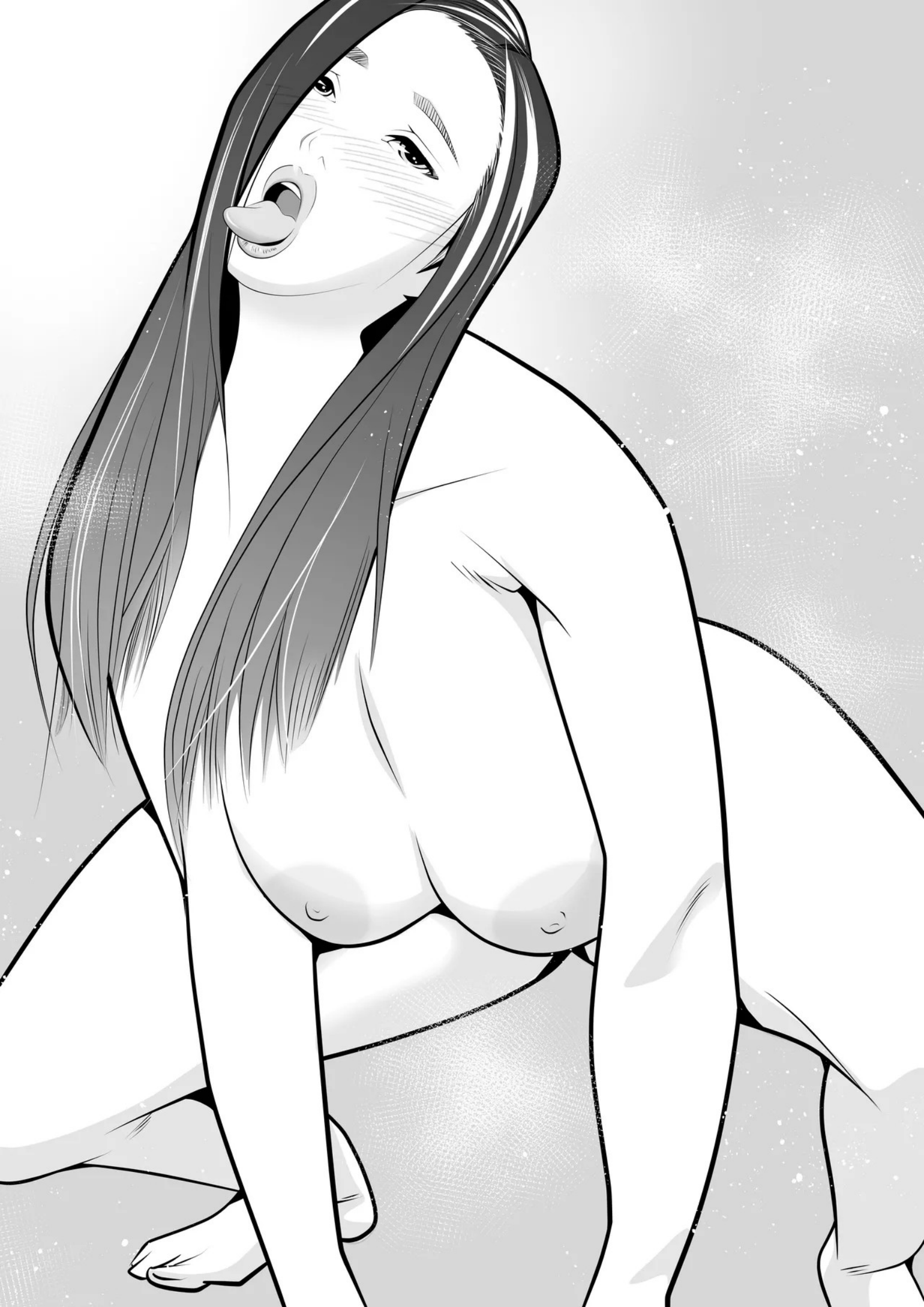












A



B





お母さんで気持ちよく  
なっちゃダメえ!!

いやあ!!

あん♡











